

Colloque franco-japonais
Chardin et son temps

2012年9月14日(金)



Pierre ROSENBERG

de l'Académie française,
Président-Directeur honoraire du musée du Louvre

Colin B. BAILEY

Deputy Director,
Peter Jay Sharp Chief Curator, The Frick Collection

Shuji TAKASHINA

Directeur du Musée d'art Ohara

Kan SHIMAMOTO

Kyoto Seika University

Akiya TAKAHASHI

Directeur du Mitsubishi Ichigokan Museum

Yoshiki ONO

Aoyama Gakuin Women's Junior College

Yoko YANO

Aoyama Gakuin University

Mirei ITO

Meiji Gakuin University

Hiroo YASUI

Mitsubishi Ichigokan Museum

■日仏同時通訳付 (デポジット1,000円)
avec traduction simultanée (caution 1,000yen)

■入場無料 entrée libre

■事前申込制 réservation obligatoire (定員120名 Capacité 120)

■参加申込/お問い合わせ: 日仏美術学会事務局

La Société franco-japonaise d'art et d'archéologie

Tel/Fax: 03-3280-2415

E-mail: art-francojaponais@digital.email.ne.jp

日仏シンポジウム

シャルダンとその時代

Maison franco-japonaise, auditorium

10:00-18:00 / 日仏会館ホール

華やかな女神たちが優雅な姿で王宮から豊かな市民の邸宅を飾った18世紀のロココ美術全盛の時代に、ジャン・シメオン・シャルダン(1699-1779)は、身近な日常の台所用具や食器、果実や食料品を、あるいは何気ない生活の一コマを、静かな画面に描き続けた。彼は対象を常に眼の前に置きながら、長い時間をかけて制作したと、当時の批評家は述べている。そこから事物の本質に迫る、しばしば魔術師、あるいは色彩の魔術師、と呼ばれた彼独自の表現が生み出された。

シンポジウムでは、シャルダンの風俗画と静物画の問題とともに、美術アカデミーなどの制度や美術作品の受容といった多角的な視点から、シャルダンと18世紀のフランス美術を考える。18世紀フランス美術の意欲的な研究を続けるコリン・ベイリー(フリック・コレクション副館長)、シャルダン研究の第一人者のピエール・ローザンベール(前ルーヴル美術館館長、テキストのみの参加)、わが国からは4人の研究者が参加して、シャルダンの魅力を解き明かす。

ピエール・ローザンベール (代読)

アカデミー・フランセーズ会員/ルーヴル美術館名誉館長

コリン・ベイリー

フリック・コレクション館長代理/ピーター・ジェイ・シャープ主任学芸員

高階秀爾

大原美術館館長

島本浣

京都精華大学

高橋明也

三菱一号館美術館館長

大野芳材

青山学院女子短期大学

矢野陽子

青山学院大学

伊藤巳令

明治学院大学

安井裕雄

三菱一号館美術館

主催: 日仏美術学会、公益財団法人日仏会館、日仏会館フランス事務所
organisé par la Société franco-japonaise d'art et d'archéologie,
la Maison franco-japonaise et le Bureau français de la Maison franco-japonaise

協賛: 公益財団法人吉野石膏美術財団、公益財団法人石橋財団
avec le soutien de Yoshino Gypsum Art Foundation et Ishibashi Foundation

協力: 三菱一号館美術館
avec le concours de Mitsubishi Ichigokan Museum